

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4390100289		
法人名	医療法人社団郁栄会		
事業所名	認知症高齢者グループホーム サンライズ楠野		
所在地	熊本市北区楠野町1069-1		
自己評価作成日	平成29年5月27日	評価結果市町村報告日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 九州評価機構		
所在地	熊本市北区四方寄町426-4		
訪問調査日	平成29年6月30日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>○かかりつけ医に受診と医療連携・隣に協力医療機関があり、入居者は職員の付き添いで受診や通院が出来る。常勤の看護師が変化や異常の早期発見に努め、協力医療機関と連携をとる体制を取っている。グループホームで点滴やリハビリを受ける事が出来る。</p> <p>○普段行けない場所への外出支援:ドライブ・神社・季節の花見・ショッピングセンター・回転寿司等、車や椅子等を利用して屋外に出る行事を計画的に実施している。</p> <p>○楽しみ事・気晴らしの支援:日々のレクリエーションや2ヶ月に一回のボランティア園芸会(舞踊)・誕生会・家族参加の行事を計画的に実施している。</p> <p>○季節の行事や入居者様の希望や状態に応じた調理法で提供できる。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>医療法人を本体とし、隣接した建物の2階に設置されたホームであるため、病状急変時や緊急時には連携体制が取られており安心な環境である。年々介護度が上がってきている中、毎朝のラジオ体操や家事、買い物等の外出、散歩、新聞を読んだり趣味の手芸を楽しんだり、それぞれの日常生活が営まれている。開設からの努力により地域との関係も良好で、日々の交流や緊急時の協力体制も構築されている。職員の日々の気付きも多く、事例毎に話し合い、カンファレンスを行う体制が整っている。職員面談では「丁寧に心をかけている」との声もあり、入居者に向かう姿が入居者や家族への安心感につながっているものと感じる。車いす使用も増え介護度も高まっていますが、理念である「安心・楽しい・きれい」が揺らぐことなく、安心で安全、穏やかな生活が継続出来る様、取り組みを期待しています。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を「安心・楽しい・きれい」と決め、思念の元にケアの実践・生活の場・環境を作る事を心がけている。又、新任職員の入職時や家族との契約時・広報誌・運営推進会議でも伝え理念の共有に努めている。	簡潔で分かり易い理念は訪問時すぐ目につくところに大きく掲げてあり訪問者を迎えている。職員は入職時研修から思いを学び、実際のケアでの振り返りを行いながら業務に就いている。広報誌等にも記載し、関わる方々との共有にも努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	入居者様と散歩に出かけた時に、地域の方達と挨拶や会話等の交流を持ったり、民生委員からの情報によりふれあいサロンへ出かける等し、地域の方達との交流支援に努めている。	運営推進会議時に頂いた情報により地域行事への出来る範囲での参加等交流を図ることに努めている。また自然な形で地域の方々による入居者の見守りもあり、地域に根付いたホームでの生活が営まれている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	民生委員から地域の一人暮らし高齢者・認知症の方の相談を受け、相談内容によっては地域包括支援センターへ繋げたりしている。ホームにボランティア来訪時は民生委員を通して地域の一人暮らし高齢者の方への案内声掛けを行っている。又、実習生(高校生)を受け入れ若い方に対しても認知症への理解や支援の方法を伝えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	二か月ごとに(偶数月)開催し、サービスの提供等活動報告を行っている。入居者様の御家族・地域の自治会長・民生委員・地域包括支援センター職員等に参加頂き、必要な要望や意見・助言等を聴く機会を設けている。	会議には行政・地域の方々に加え入居者家族の参加もあり、相互の情報交換の場としている。入居者の状況報告だけでなく、毎月の行事や予定、職員の配置状況等も報告し、様々な意見を運営に活かす取り組みを行っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	毎月、熊本市の介護相談員を受け入れて、入居者様の状況を見て頂き、実情やホームの取り組みを伝えている。又、介護相談員からの報告書でも入居者様の気持ちを把握出来、ケアに活かす様に努めている。	市担当者には機会あるごとに連絡し相談しながらケアを行っている。市よりの介護相談員受入れでは入居者全員の状況を見て頂き、報告で得た意見はケアに活かす様取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勉強会を行い、スピーチロックも含め拘束をしないケアに努めている。ホームは、安心安全の為にセキュリティシステムを導入しているが、入居時にご家族へ説明し同意を得ている。日常は、入居者様の思いに沿い外出や洗濯物干し等職員付き添いで自由に出来、外気を感じる事が出来る様にしている。	勉強会でテーマを設け学んでいる。法人では委員会も設置しており、会議後は職員への報告・学びを行っている。立地上安全確保のため入居者一人で自由に敷地外に出れないが、職員は見守りを第一としたケアを行い、入居者の行動を拘束しないケアを行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内の勉強会や外部の研修会へ参加し、報告書の提出や、職員会議での振り返りを行い、情報を共有する事で虐待防止に努めている。		

認知症高齢者グループホーム サンライズ楠野

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人内の勉強会に外部講師の方に来て頂いたり、外部の研修へ参加して学んだ事を報告書の提出や職員会議で報告してもらう事で情報の共有を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居に際し、見学も含めて事前に訪問したり面接を実施し、サービス内容・契約内容の説明を行い理解と納得を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に入居者様の状況を伝え、意見や要望を聴いている。遠方の御家族へは電話や写真・年5回発行の広報紙を送り、状況を報告している。又、全家族へ運営推進会議の案内を行い参加してもらい、運営に反映させる様にしている。	入居者は地域からの利用がほとんどであり、面会の機会も多い。面会時には職員からの報告だけでなく意見・要望を聞くようにしている。運営推進会議には出席の呼び掛けをし、出来るだけ多くの参加を募ることにより意見を頂く機会として運営に繋げている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の職員会議に法人の幹部職も参加し、職員の意見や思いを伝えたり、日頃の事業所の取り組み等の報告を行い、意見交換や反映の場としている。	月1回の職員会議で意見や思いを伝える機会としている。また日頃の業務の中でも職員間のコミュニケーションを深め、意見の出やすい職場作りに努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の資格取得や病気療養等の為の勤務調整や療養後の職場復帰時には無理のない様な勤務体制にしている。又、職員個々の事情要望を把握し、旅行等リフレッシュ出来る様職場環境の整備を行い、やりがいや向上心を持てる様に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員個々の経験や力量を見て外部研修や法人内の委員会、主任研修、新人研修、中堅研修へ参加している。法人内勉強会でも外部講師を呼んでの勉強会も準備されており、研修を受け易く、スキルアップの機会の確保が出来ている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型研修会や他の研修会へ参加し、情報交換や意見交換等お互いのサービスの質の向上に努めている。		

認知症高齢者グループホーム サンライズ楠野

自己	外部	項目	自己評価	
			実践状況	実践状況
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			外部評価	
			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に病院・施設へ訪問したり見学に来て頂き、生活歴・既往症・趣味等を伺う様にしている。入居に至る迄の間は、納得される迄見学に来て頂いたり相談を行う等、安心して入居後の生活を送って頂ける様に努めている。	
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	必ず見学・面接と何度か来て頂き、ホームの生活を見て頂いている。その中で、御家族の思い・要望等を伺い、信頼関係を築く様にしている。又、入居後もコミュニケーションを多く持ち、本人が安心して暮らせる様に一緒に関わられる関係作りに努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	御家族・入居者様の意見・思いを聴き、その時必要とされている支援は何かを見極め、主治医やケアマネジャー等と相談の上、他のサービスも含めた対応に努めている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の生活の中で、食事や家事活動を共同で行い、支え合う関係が出来ている。職員は、あらゆる面で教えられ、逆に励まされたり、会話の中で沢山のヒントや気持ちを頂いている。職員も入居者様にケアされて成長していると感じている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会が遠のかれている御家族・遠方の御家族には、日頃の様子を電話や書面で報告している。面会時には必ず状況報告や要望はないか、御家族とのズレがないか確認する様にしている。又、大きな行事には御家族にも呼びかけ、本人と過ごす時間を大切にしている。御家族との絆を大切にしながら日頃のケアに関しても必ず相談し、御家族と共に支え合える関係作りに努めている。	
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域のふれあいサロン等へ参加して交流が持てる様にしている。又、近隣の神社や生活されていた地域へのドライブや買い物へ出かけ、人や場所との関係が途切れない様に支援している。	運営推進会議での地域情報を基に行事やふれあいサロンへの参加が継続出来る様支援を続けている。また希望や計画による外出の際も馴染みの場所や地域に関係した場所を選ぶ等、関係継続を支援している。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	役割活動を通して、入居者様同士が円滑に関われる様に職員が間に入りながら関係作りをしている。又、合同レクリエーションや食事・テーブル席の配置等に配慮し、入居者様同士が協力し合ったり対話等、関係作りが出来る様に努めている。	

認知症高齢者グループホーム サンライズ楠野

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も施設や病院へ面会に行き、顔を合わせて様子伺いを行い、相談や支援を行う様にしている。又、夏祭り等の行事への参加案内等を出し、これ迄の関係が途切れない様に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の何気ない会話や動作に本人の思いが出ていと考え、その事に気付けるよう記録に残している。情報を共有して、全職員の日や耳、全身で感じ、思いを様々な視点から捉え、入居者様の気持ちに沿える様に努めている。	日頃の会話や動作を大切に、思い等を把握できるよう努めている。また市介護相談員からの面談報告や家族からの情報等も参考に、職員で情報を共有し、入居者の意向に沿う様支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者様や御家族から入居前の情報収集や、入居後も入居者様との会話の中や御家族からの情報提供を貰う等して把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	これ迄の人生の一片を語られたり、思い出話をされたりするので、一つの言葉や行動を大切にそれらに気づける様にしている。御家族・知人の面会時に情報の収集を行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者様や御家族からは要望・生活歴・趣味等を、主治医からは医療面での意見・助言をもらい、ケアプランの作成を行っている。又、職員間での定期的なケアプランの評価・見直しを行い、現状に即したケアプランを作成している。	入居前に本人、家族、主治医等からの情報を基に介護計画を作成する。実際に入居前には何度か見学に来て頂き現状に即した介護計画作成に活かしている。定期的に評価、アセスメントを行い、都度現状に即した介護計画作りを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	1ページで1日の様子が分かる様な記録用紙にしている。食事・排泄・健康観察やその日に行ったレクリエーションや活動等の記録を個人別に記録し情報の共有に努め、ケアプラン作成に繋げている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者様・御家族の状況に応じて、通院や送迎等に対応している。医療連携を取りながら点滴等の支援が出来る。併設のデイサービスとの交流を支援している。又、理美容サービスが利用出来る様に支援している。		

認知症高齢者グループホーム サンライズ楠野

自己	外部	項目	外部評価	
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣のホームセンターや食料品店へ日用品やおやつの食料品の買い物へ出掛けたり、地域の神社の行事(初詣、茅の輪くぐり)等、季節ごとに様々な行事を企画し豊かな暮らしを提供している。	
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前のかかりつけ医を尊重しているが、入居時に協力医の説明を行い、入居者様や御家族の希望するかかりつけ医としている。専門科は必要に応じて御家族と一緒に受診し、情報を共有する様にしている。	入居前のかかりつけ医や医療を受診できるようにしている。職員による通院支援を行うが、専門医受診の際は特に家族同伴をお願いしており、職員だけの通院介助の場合は家族に都度報告、情報の共有を図っている。
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	主任が看護師であり、日々の状況を把握し、他の職員への助言をしたり、他の職員からの報告を受けた際には早めの受診等、必要に応じて対応している。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先の病院と情報交換をし、医師や病院関係者との連携をし退院後のケアの方針について御家族とも相談し必要な支援を行う様にしている。	
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居前や入居後にホームで出来る事、出来ない事を伝えたりケアプラン説明時や御家族面会時に状態を報告し、主治医・御家族と相談しながら方針、支援を行い必要に応じて専門医や他の施設を紹介している。又、御家族の要望もあり、ホームでの看取りを主治医・看護師・事業所職員・御家族と何度も話し合いの場を持ちながら共に行った。	入居時に重度化や終末期に関する姿勢を説明し了承を得ている。実際に終末を迎える時期となった際は、家族、主治医を始めとする関係各者と相談を重ねながら対応を行っている。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応や緊急連絡網等、隣接の病院との協力体制が出来ている。母体医院が隣にあり24時間、医師・看護師が対応可能である。	
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	半年に一度、消防訓練(昼・夜間想定・地震想定)を入居者様も参加して実施している。隣接病院との合同訓練も実施し連携を図っている。定期的な通報設備点検や緊急連絡網の見直し、近所の入居者様の御家族や自治会へ運営推進会議で依頼し協力体制を築いている。	年2回、昼夜想定で入居者参加にて訓練を実施している。法人病院との合同訓練も行い、近隣住民への協力も依頼し、安全体制を整えている。

認知症高齢者グループホーム サンライズ楠野

自己	外部	項目	外部評価	
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	法人の委員会活動を通して個人情報についての周知徹底を図っている。日々の生活においてもプライバシーを損なわないよう対応している。入居者様一人ひとりを尊重し、日頃よりプライバシーに配慮した言葉かけや対応を心がけている。	一人ひとりを人生の先輩と仰ぎ、入居までの生活歴や性格も把握し、それぞれに応じた言葉かけや対応を行っている。法人内には委員会もあり、記録を書く際や保管にも徹底して配慮している。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様が分かり易い言葉かけや対応を心がけている。入居者様の関心事や要望を見極めて自己決定が出来る様な雰囲気や場面作りに努めている。	
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な流れはあるが、入居者様本位に生活ペースを尊重している。心身の状況や生活習慣・嗜好やその時々の方の気分に対応した柔軟な支援を行う様にしている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	法人内の美容室に出掛けたり買い物の支援を行っている。本人の好みの洋服選びをしたり、手指のお洒落を楽しめる等、一人ひとりに合った支援に努めている。	
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	本人に合わせてソフト食や一口サイズにカットして提供している。配膳や下膳、食器洗い、お盆拭きと一緒に準備を行い食事の時間を楽しんで頂いている。又、入居者様の好みを聴き、献立から共に考え職員と共に調理を行い食事を楽しんでいる。	法人の厨房で作られた食事を、ホーム内で入居者と共に配膳、下膳、食器洗い等行っている。食事の形態は身体能力により夫々に対応している。毎日の朝食やおやつ、また行事の際には入居者と共に調理も楽しんでいる。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士による献立で栄養管理されている。毎回食事と水分摂取量を観察記録している。その方の状態に合わせて刻み・粥・コーヒ・紅茶・ゼリー等で提供している。夜間のトイレ覚醒時にも飲水を勧め支援している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声掛け誘導し、介助が必要な入居者様には付き添いや介助にて実施している。夜間は、義歯を洗浄液に浸漬している。協力歯科医院(新地ハロー歯科)と連携して必要に応じて訪問治療や通院治療で指導を受けている。	

認知症高齢者グループホーム サンライズ楠野

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中はほぼ全員トイレでの排泄を実施している。介助の必要な方も職員2名で排泄介助を行いトイレでの排泄を促している。又、排泄チェック表を活用し排泄支援を行っている。	排泄チェック表を活用し、時間や様子を察して声掛けや誘導を行っている。基本的に昼間はトイレでの支援を行っており、排泄の機能低下を防止する様支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	起床時の牛乳の提供やおやつにヨーグルトや芋を使う工夫をしたり、散歩や腹部マッサージ等を行い自然排便を促す工夫をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は週に2回、入居者様の希望を確認して実施している。その時の状態に合わせて入浴回数が増えたり、清拭に変更したり、入浴時間も本人の希望・状況に応じて午前・午後と柔軟に対応している。	週2回を基本とし、体調や希望により午前・午後・夜と時間は自由で、汚染時や状況により都度入浴も出来る。その時の状態により入浴が難しい際は、清拭を行い、清潔保持に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	レクリエーションや散歩・日光浴の実施で日中の活動性を高め、生活リズムを整えるように努めている。一人ひとりの体調や思いを尊重し、状況に応じて昼間の臥床休憩の支援を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服紹介ファイルで、常に薬の効用や副作用を確認出来る様にしている。誤嚥防止の為に定期分は一包化したりトリプルチェックを行い服薬支援をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常生活の中で、出来る事・出来ない事を知り、洗濯物干しや取り込み・刊出し・食事の片付け等の役割の支援をしている。買い物やドライブ・ボランティアによる演芸会等の楽しみ事への支援も行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望や状態に応じて洗濯物干し・マッサージ・散歩・買い物等個別対応と、季節に応じての花見・神社参拝・外食等を定期的に計画している。	希望や体調、天候を考慮し、散歩や買い物等を日常的に行っている。入居者の身体状況より全員での外出は難しくなってきたが、日々の散歩で近隣の方々と触れ合い等、日常的な姿である。計画した外出も、季節毎の花見や地域の祭り、神社参拝、外食、地域行事等、馴染みのある場所も多く喜ばれている。	

認知症高齢者グループホーム サンライズ楠野

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	御家族より、お小遣いとして預かり、職員管理で金庫内に保管。外出時に本人好みのおやつや日用品の購入を職員付き添いのもと行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	親しい方からの葉書や年賀状が届いたり、入居者様からも職員と共に年賀状を書き近況を伝える等の支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ソファコーナーや畳コーナー・食事やおやつ等を手作りする食堂があり、入居者様の気分や活動の目的により使用している。フロアは、好みに合わせてくつろげる様に季節の花や壁飾りで配慮している。日頃から五感や季節感を感じる事が出来、居心地良く過ごせる様に工夫している。	共有の食堂、自由に過ごせるリビングを囲む様に居室は配置されており、入居者それぞれの気分によってソファや畳コーナー、食堂で過ごすことが出来る。空間には行事の写真が飾られ話題を提供している。また手作りの飾りも多く気持ちを和ませる。ゆったりとした空間は掃除が行き届き清潔感があり、周期や光量にも配慮している。	毎朝の掃除が徹底されており、日中は入居者が掃除する姿も見られます。理念である「安心・楽しい・きれい」が実践されていることが伝わる空間です。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファコーナー・リビング・畳コーナーがあり、季節や一日の時間の中で好みの場所で横になられたり、テレビを視たり、読書に集中出来たり、自由に好みの場で過ごして頂ける様に工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	洋間・和室の2タイプの居室があり、写真・趣味で作られていた作品・縫いぐるみ・人形等を居室に飾り、居心地の良い部屋となる様に工夫している。	和・洋タイプの居室は使い慣れた家具や生活用品を持ちこんで頂いている。それぞれの状態により安全を配慮した配置の中、花や手作りの手芸品等、好んで落ち着ける物が飾られている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室入口からホール全体が見渡せ、トイレ・浴室・居室が分かる様に、入居者様が好まれる物を目印に飾ったり、のれん等で視覚に訴え活動の場を増やす工夫をしている。		

2 目 標 達 成 計 画

サンライズ 楠野グループホーム

作成日 平成29年 8月 1日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	20	馴染みの人や場との関係継続の支援	今後も家族や友人・知人、地域の方々が訪問しやすい環境作りや、地域の馴染みの場所へ出かける機会をつくり、これまで築いてきた関係が途切れる事のない様にする。	・今後も家族や友人・知人等の来訪を受け入れ、入居者が築いて来られた関係を継続出来る様に支援する。 ・地域の方々との関わりを大切に、地域の神社や買い物等へ外出する機会を設け馴染みの人や場との関係が途切れる事のない様に支援する。	12か月
2	33	重度化や終末期に向けた方針の共有を支援	入居歴が長くなるにつれ、認知症や身体機能の低下著名に見られてくる為、今迄以上に家族や主治医、医療機関との連携を密にし、本人様と家族の思いを把握し支援にあたる。	・入居者の身体状態等に変化が見られた際には、家族や主治医、事業所職員と共に相談を重ねながら対応を行う。	12か月
3	40	食事を楽しむ事の出来る支援	入居者様一人一人の出来る事、出来ない事を把握し、能力に応じたお手伝いをして頂いたり、食事形態も一人一人のその日その時の状態に応じて対応する。	・入居者の身体状態に応じて食事形態をかえたり、身体機能レベルによっては一部介助や全介助を行い、入居者が安心して食事を楽しむ事が出来る様に支援する。	12か月
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。

